

JVCケンウッド 決算説明資料

2019年3月期 第2四半期

2018年11月1日

株式会社JVCケンウッド

当社は2018年3月期の有価証券報告書から、従来の日本会計基準に替えて、国際財務報告基準（IFRS）を任意適用いたしました。

本資料の2019年3月期および2018年3月期の数値は、すべてIFRSとなっております。

事業内容

メディアサービス分野 (MS)

■メディア事業

- ・ソリューション／ライフスタイル (旧プロダクツ)
ビデオカメラ、ヘッドホン、プロジェクター、
ホームオーディオ など

■エンタテインメント事業

- コンテンツ／受託ビジネス

パブリックサービス分野 (PS)

■無線システム事業

- 業務用無線、アマチュア無線、
無線システム機器 など

■業務用システム事業

- 監視カメラ、業務用放送機器 など

■ヘルスケア領域

- 医用画像表示用モニター、エクソソーム解析システム、
ゲイズファインダー など

その他 (1.9%)

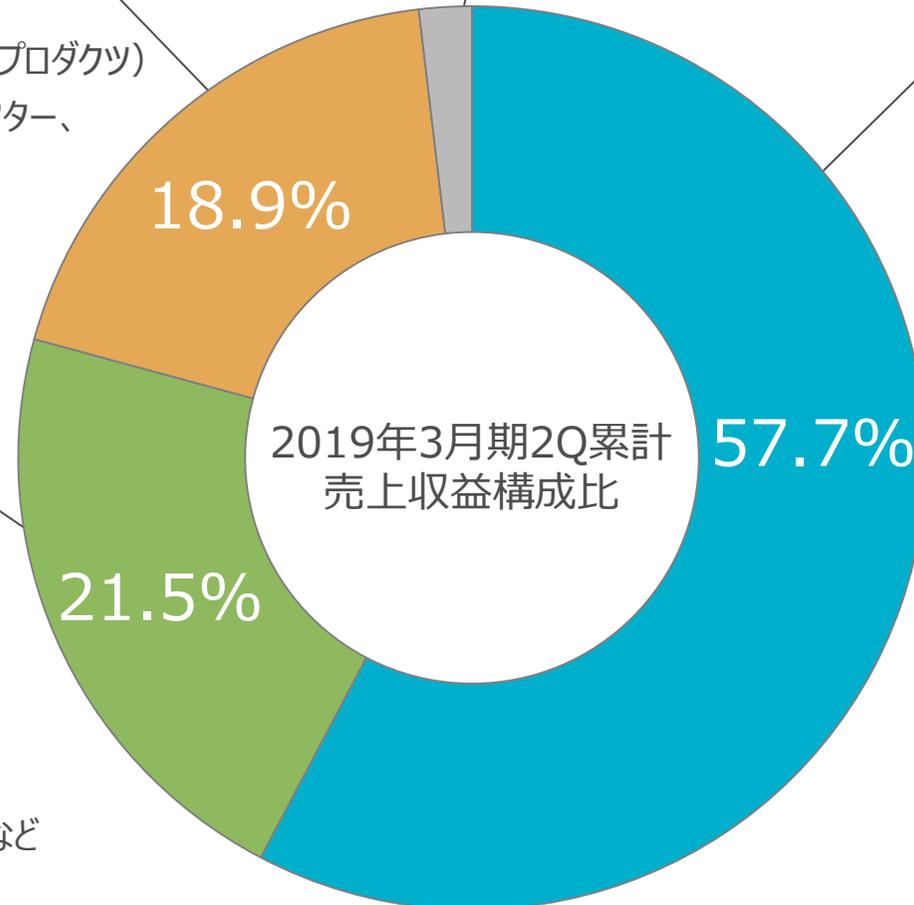
オートモーティブ分野 (AM)

■アフターマーケット事業

- ・カーナビゲーション
- ・カーオーディオ
- ・ディスプレイオーディオ
- ・ドライブレコーダー など

■OEM事業

- ・カーナビゲーション
- ・ディスプレイオーディオ
- ・ドライブレコーダー
- ・車載用カメラ
- ・車載用CD/DVDメカ
- ・車載用光ピックアップ
- ・車載用スピーカー
- ・車載用アンテナ
- ・車載用アンプ
- ・デジタルコックピットシステム など



- 1. 2019年3月期 第2四半期決算概況**
- 2. 2019年3月期 業績予想**
- 3. トピックス**

1. 2019年3月期 第2四半期決算概況

2. 2019年3月期 業績予想

3. トピックス

2019年3月期2Q決算 ハイライト

- 売上収益は、AM分野およびPS分野が牽引し増収
- コア営業利益は、AM、PS、MSの3分野とも増益となり大幅増。営業利益も増加
- 税引前四半期利益は、営業利益の増加などにより増益
- 四半期純利益は、税引前四半期利益の増加などにより増益

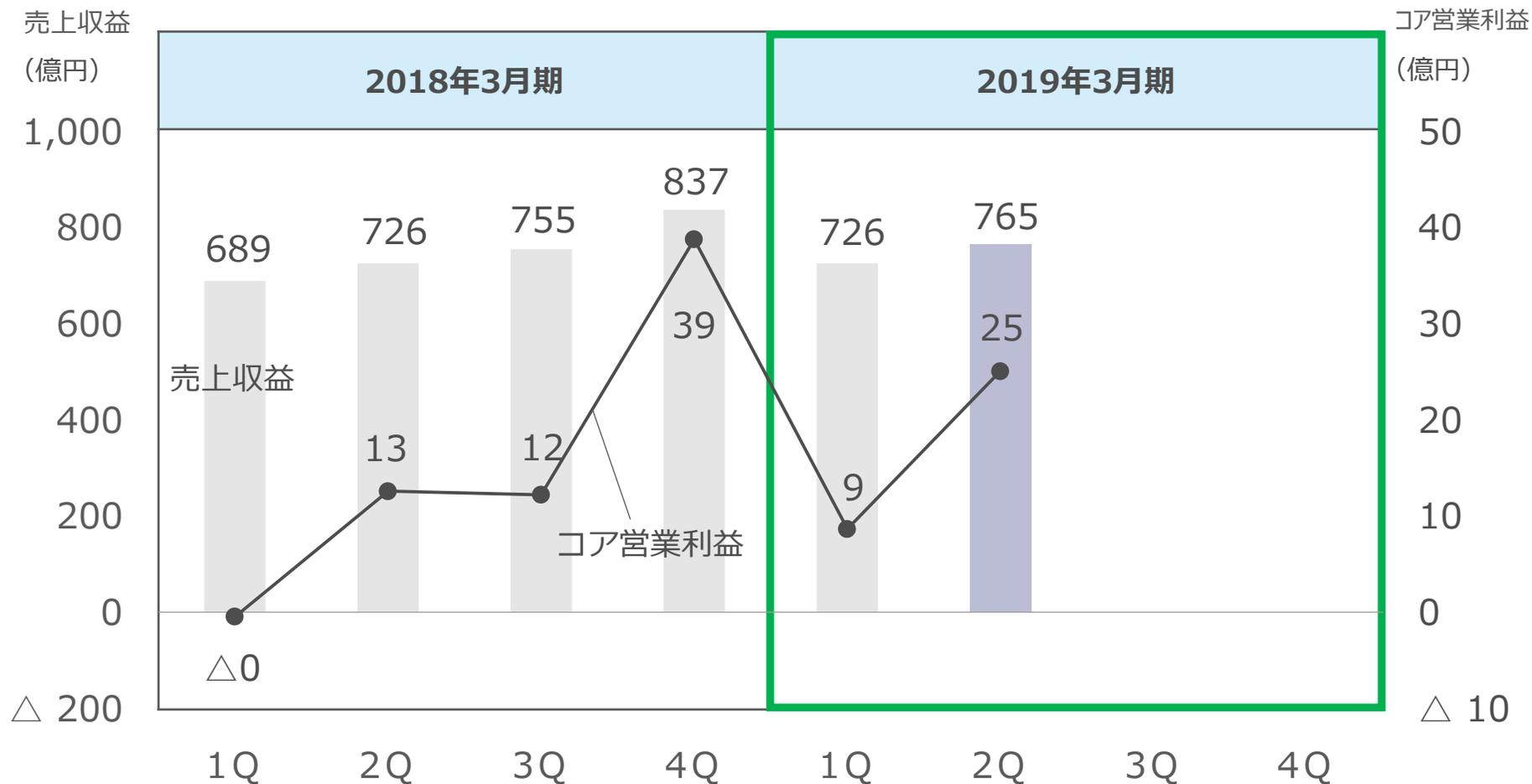
(億円)

	'18/3期2Q累計		'19/3期2Q累計		前期差
		構成比 (%)		構成比 (%)	
売上収益	1,415	100.0	1,491	100.0	+ 76
売上原価	1,042	73.7	1,086	72.8	+ 44
売上総利益	372	26.3	405	27.2	+ 33
コア営業利益 [※]	12	0.9	34	2.3	+ 22
営業利益	24	1.7	35	2.4	+ 12
税引前四半期利益	19	1.3	32	2.1	+ 13
親会社の所有者に帰属する四半期利益	8	0.6	18	1.2	+ 9

※ 営業利益から、その他の収益、その他の費用、為替差損益など、主に一時的に発生する要因を控除したもの

		'18/3期					'19/3期				
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
損益為替レート	1米ドル	111円	111円	113円	108円	111円	109円	111円	-	-	-
	1ユーロ	122円	130円	133円	133円	130円	130円	130円	-	-	-

2019年3月期2Q決算（四半期別）実績推移



損益為替レート	1米ドル 1ユーロ	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
		111円	111円	113円	108円	109円	111円	-	-
		122円	130円	133円	133円	130円	130円	-	-

(億円)

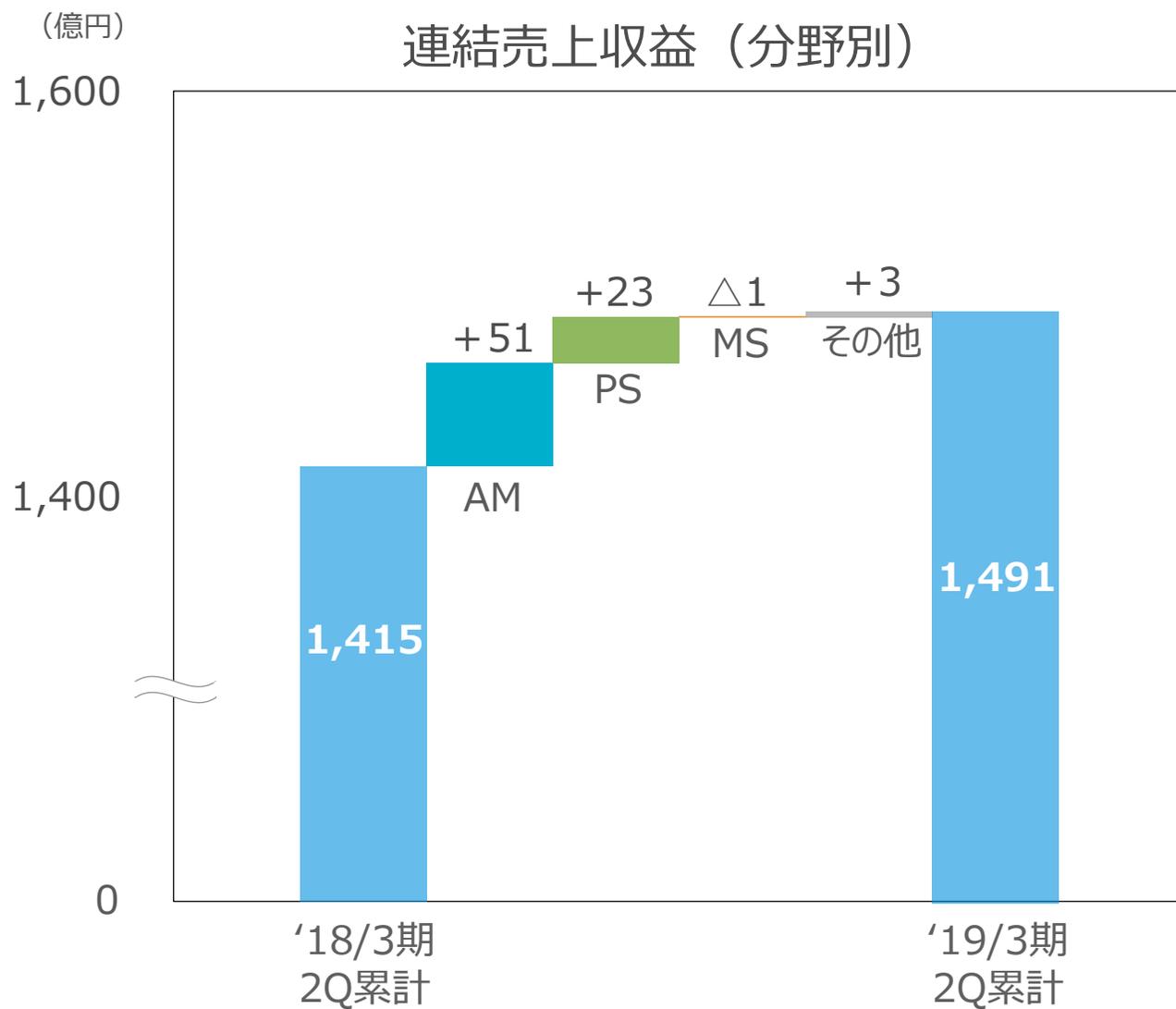
	上期	下期	上期	下期
売上収益	1,415	1,592	1,491	
コア営業利益	12	51	34	

2019年3月期2Q決算 分野別の状況

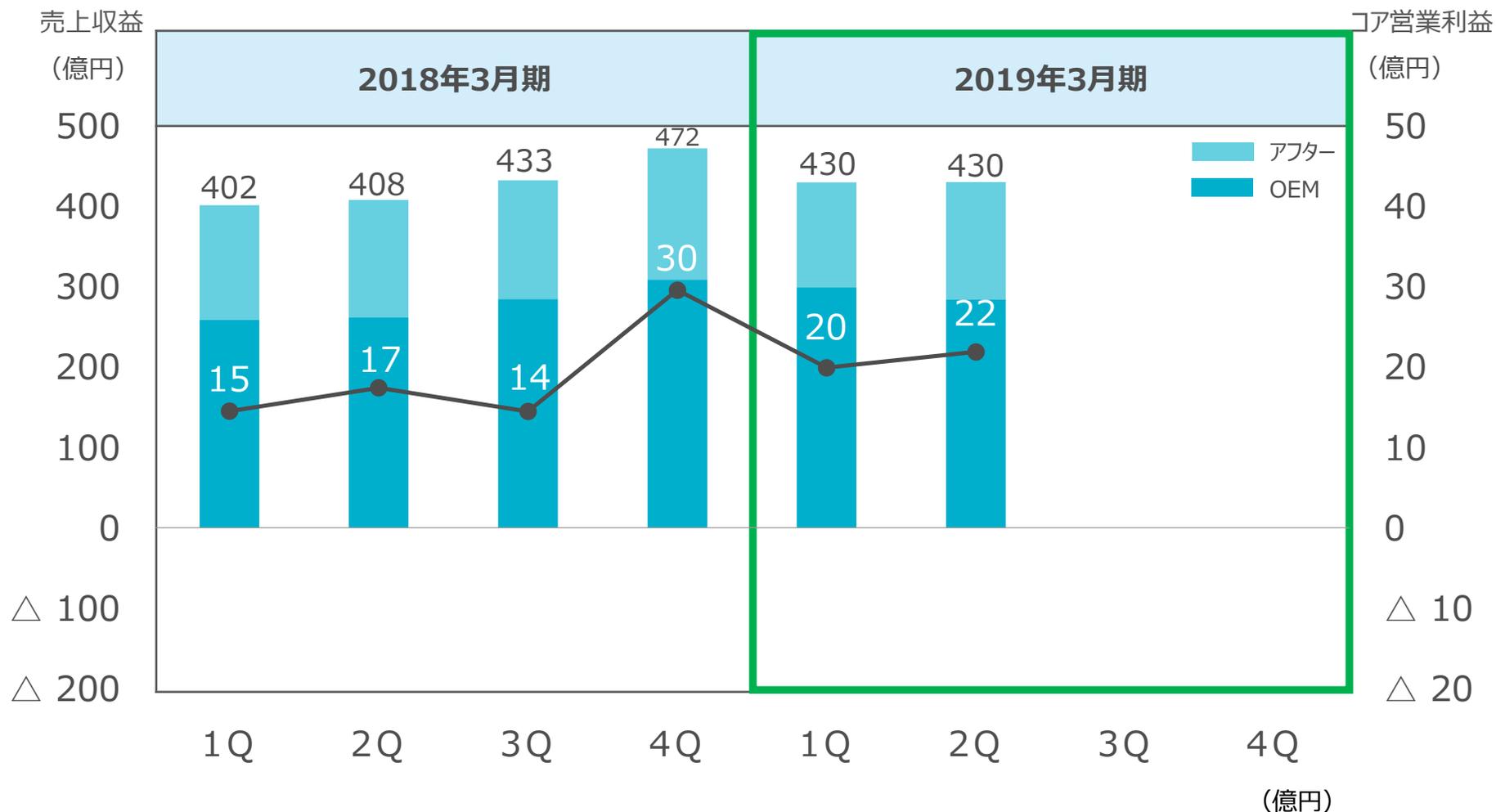
(億円)

		'18/3期 2Q累計	'19/3期 2Q累計	増減	前期増減率	要因
オートモーティブ	売上収益	810	861	+51	+6.3%	* OEMの増収により、分野全体でも増収 * OEMの増益により、分野全体でも増益
	コア営業利益	32	42	+10	+31.4%	
パブリックサービス	売上収益	298	321	+23	+7.7%	* 無線システムの販売増、Rein Medical社の子会社化などにより、分野全体で増収 * ヘルスケアの先行投資があったものの、無線システムの黒字化により損失縮小
	コア営業利益	△ 18	△ 14	+4	—	
メディアサービス	売上収益	282	282	△ 1	△0.2%	* メディアが減収もエンタテインメントの販売増により、分野全体では前年同期並み * メディアの損失縮小、エンタテインメントの構造改革効果発現などにより、分野全体で増益
	コア営業利益	△ 1	7	+8	—	
その他	売上収益	25	28	+3	+12.1%	
	コア営業利益	△ 1	△ 1	△ 1	—	
合計	売上収益	1,415	1,491	+76	+5.4%	
	コア営業利益	12	34	+22	+178.4%	

2019年3月期2Q決算 連結売上収益（分野別）

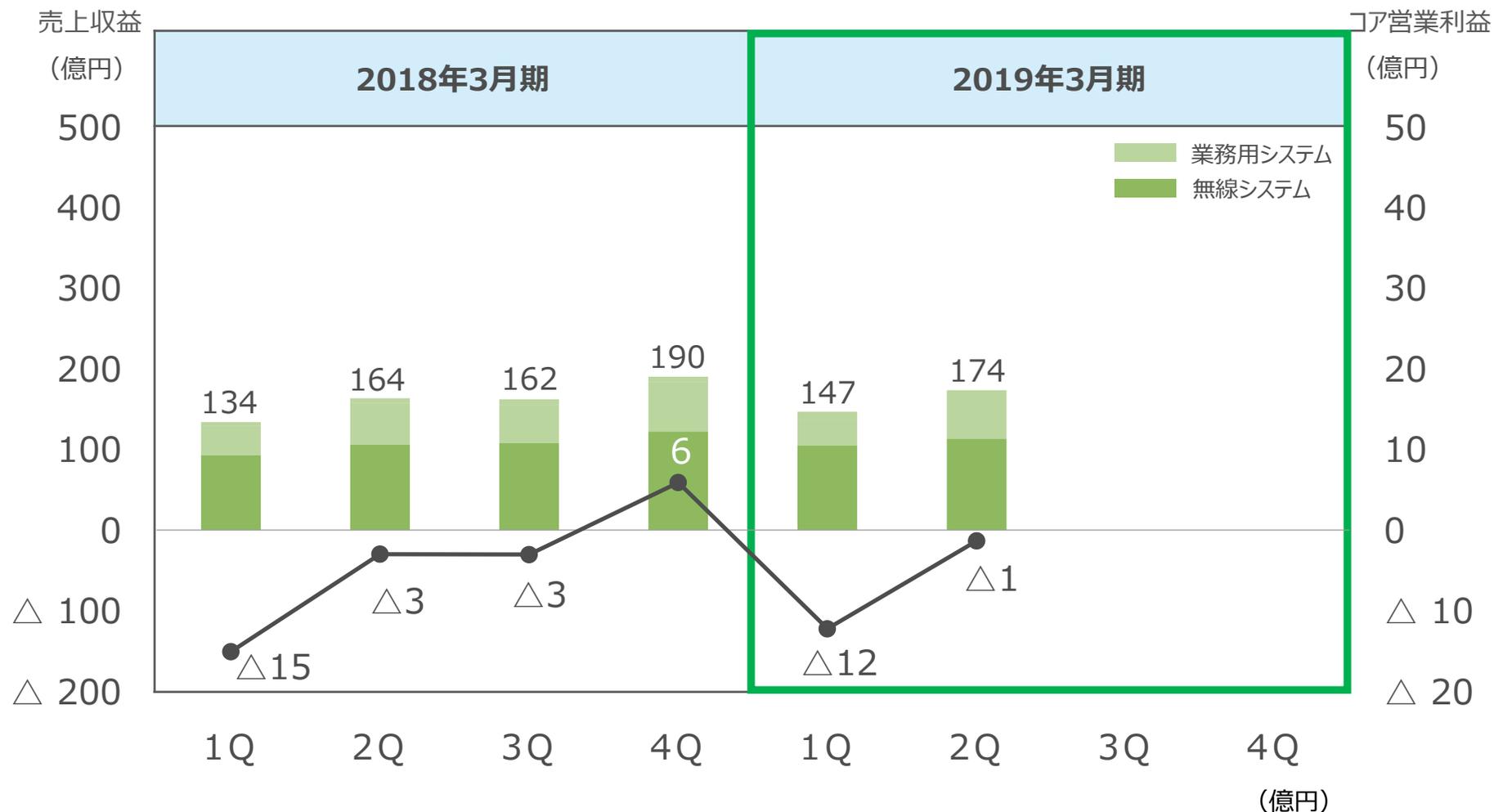


2019年3月期2Q決算 AM分野 四半期別実績推移



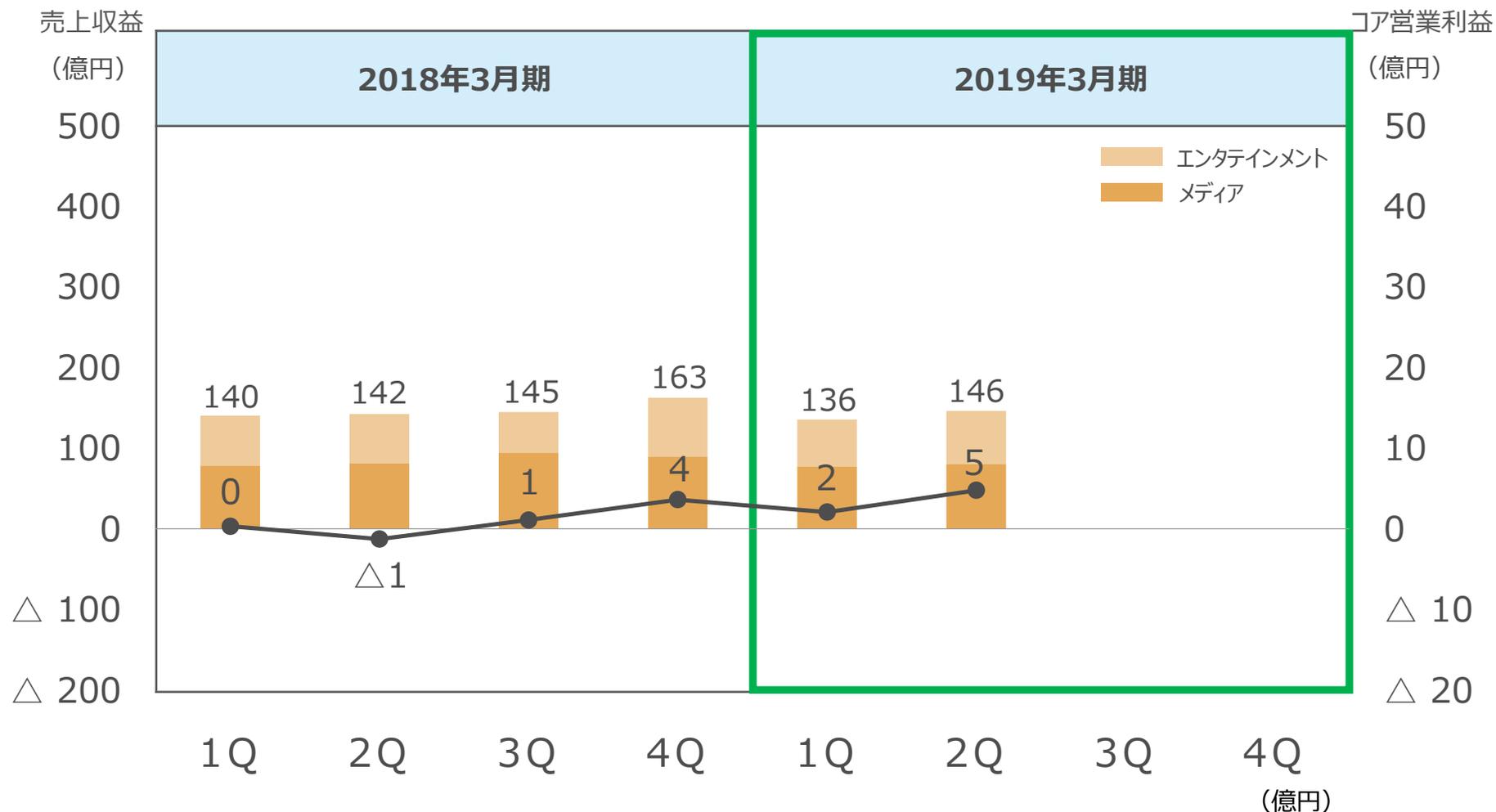
	上期	下期	上期	下期
売上収益	810	905	861	
コア営業利益	32	44	42	

2019年3月期2Q決算 PS分野 四半期別実績推移



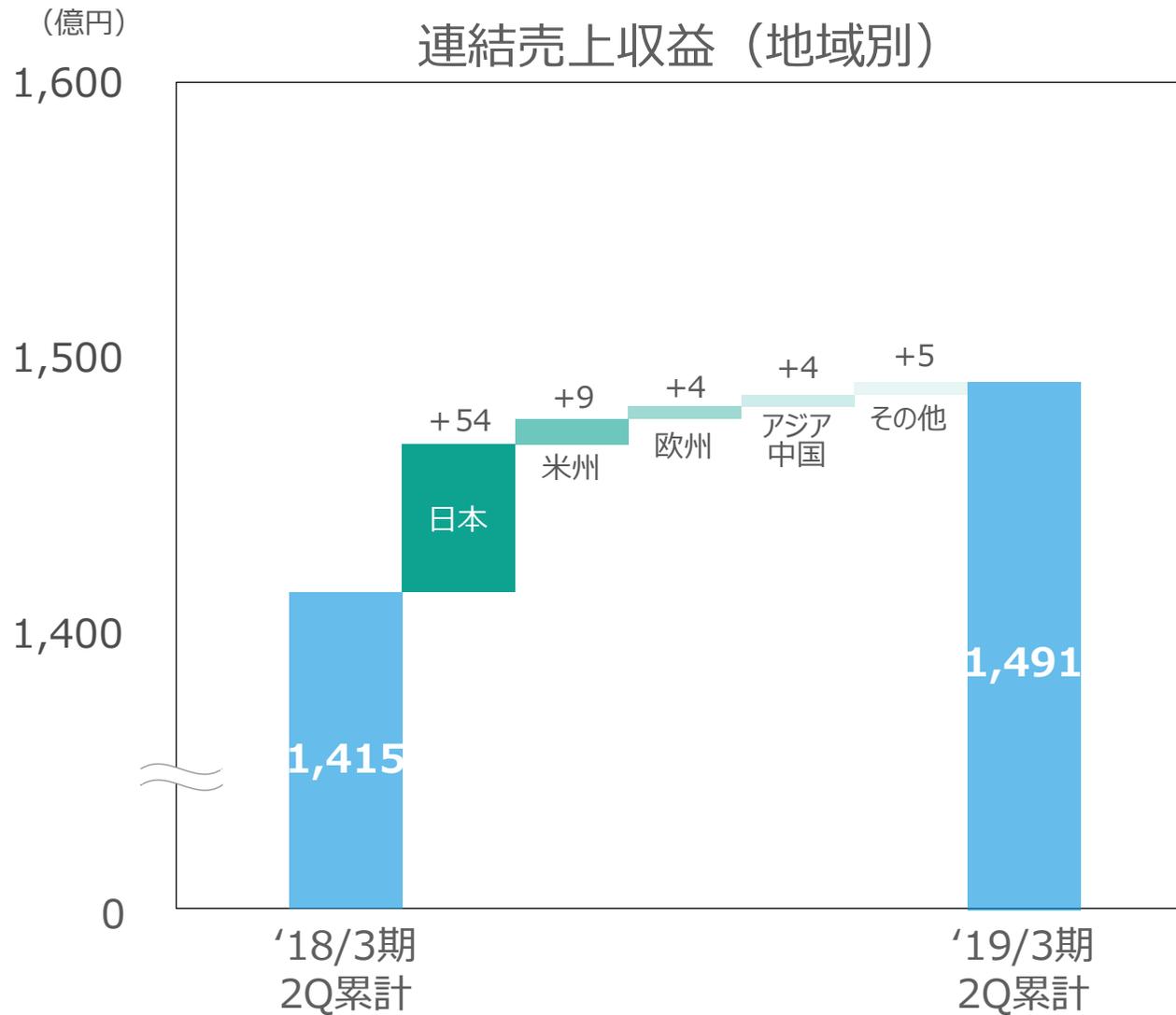
	上期	下期	上期	下期
売上収益	298	353	321	
コア営業利益	△ 18	3	△ 14	

2019年3月期2Q決算 MS分野 四半期別実績推移

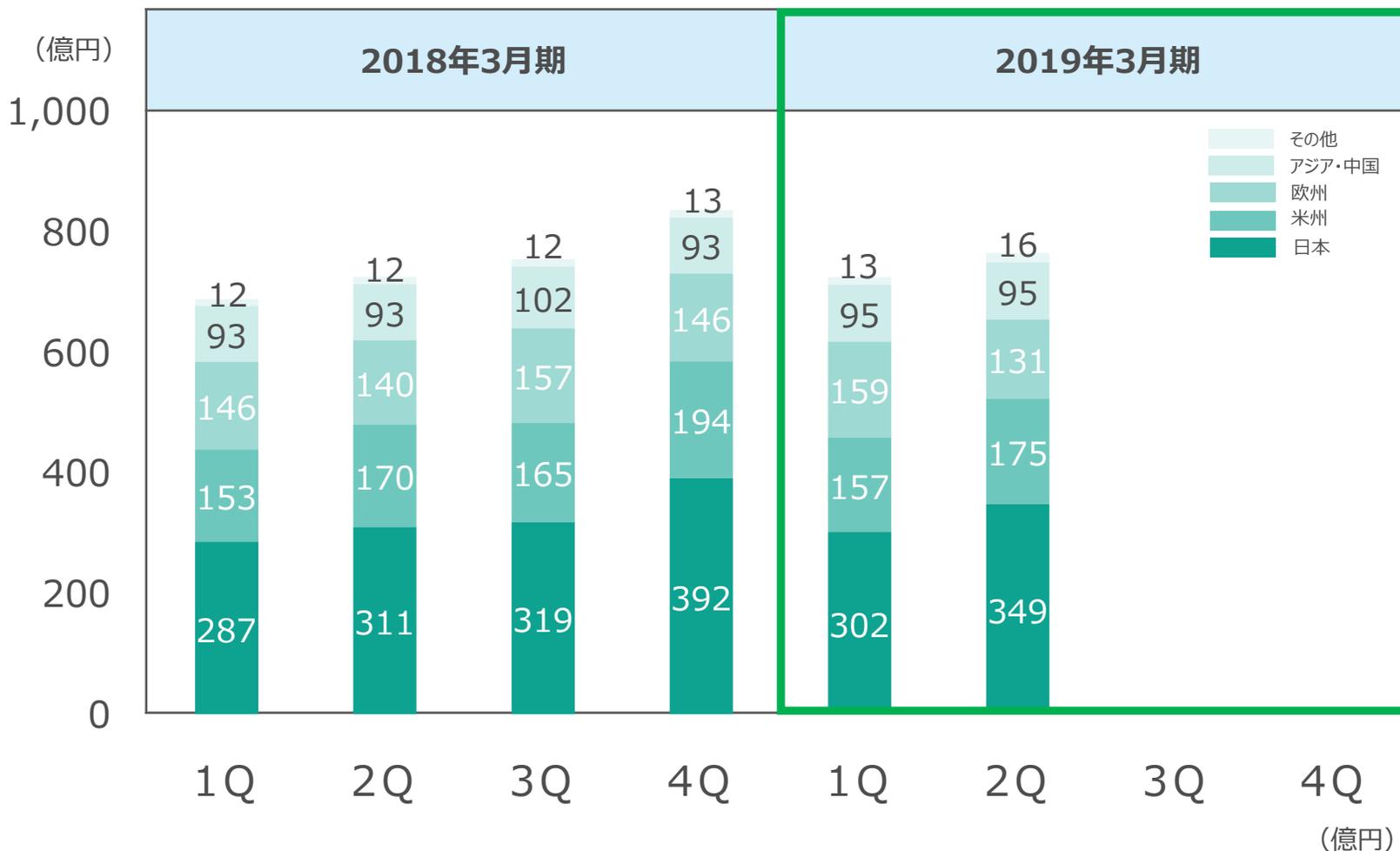


	上期	下期	上期	下期
売上収益	282	307	282	
コア営業利益	△ 1	5	7	

2019年3月期2Q決算 連結売上収益（地域別）

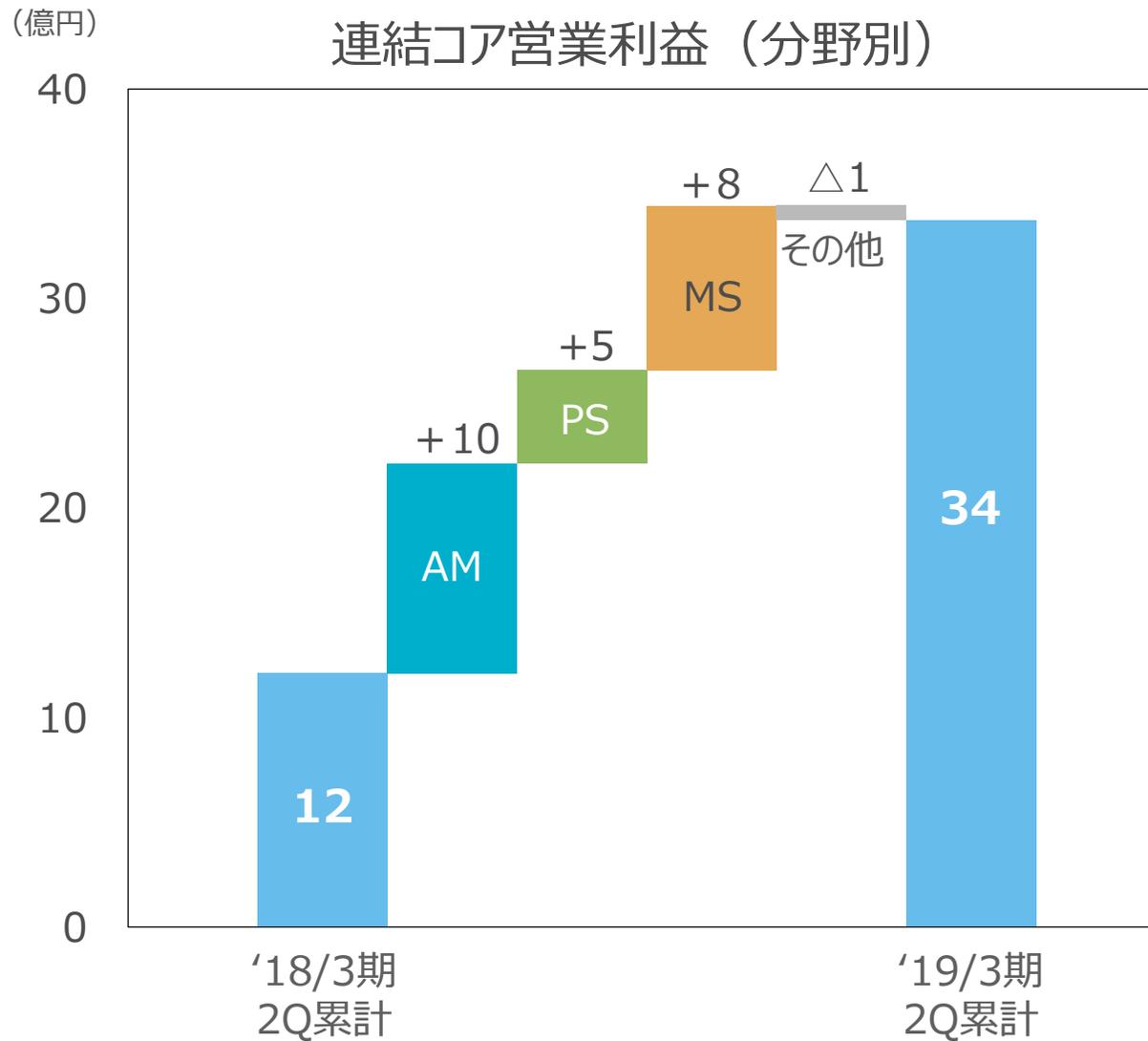


2019年3月期2Q決算 地域別連結売上収益推移



	上期	下期	上期	下期
日本	598	711	651	
米州	323	359	332	
欧州	285	303	290	
アジア・中国	186	195	190	
その他	24	25	28	

2019年3月期2Q決算 連結コア営業利益（分野別）



2019年3月期2Q決算 四半期連結損益（要約）

- 営業利益は資産売却益の減少があったものの増益
- 営業利益の増加などにより、税引前四半期利益は増益
- 税引前四半期利益の増加などにより、親会社の所有者に帰属する四半期利益は増益

	'18/3期2Q累計	'19/3期2Q累計	増減
コア営業利益 [※]	12.1	33.7	+ 21.6
その他の収益・費用、為替差損益等	11.5	1.4	△ 10.0
営業利益	23.6	35.2	+ 11.6
金融収支他	△ 4.5	△ 3.5	+ 1.0
税引前四半期利益	19.1	31.7	+ 12.6
法人所得税費用	5.7	11.4	+ 5.7
非支配持分	5.0	2.5	△ 2.5
親会社の所有者に帰属する四半期利益	8.4	17.7	+ 9.4

※ 営業利益から、その他の収益、その他の費用、為替差損益など、主に一時的に発生する要因を控除したもの

2019年3月期2Q決算 財政状態サマリー

(億円)

	'18/3期末	'19/3期2Q	増減
資産合計	2,399	2,514	+ 115
負債合計	1,861	1,867	+ 5
資本合計	538	647	+ 110
有利子負債	678	713	+ 35
ネットデット	307	278	△ 28
ネットD/Eレシオ (倍)	0.61	0.46	△ 0.15
親会社の所有者に帰属する持分	506	611	+ 105
親会社所有者帰属持分比率 (%)	21.1	24.3	+ 3.2

2019年3月期2Q決算 キャッシュ・フロー サマリー

- 税引前四半期利益が増益となったことなどから、営業キャッシュ・フローは収入が増加
- 開発投資増に加えて、Rein Medical社の子会社化や固定資産売却収入減少などにより、投資キャッシュ・フローは支出が増加
- 新株予約権の行使による収入があったことなどから、財務キャッシュ・フローは収入が増加

(億円)

	'18/3期2Q累計	'19/3期2Q累計	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	106	117	+ 11
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 60	△ 122	△ 62
フリー・キャッシュ・フロー	46	△ 6	△ 52
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 27	63	+ 90
合計	19	57	+ 38

※ フリー・キャッシュ・フロー = 営業活動によるキャッシュ・フロー + 投資活動によるキャッシュ・フロー

1. 2019年3月期 第2四半期決算概況

2. 2019年3月期 業績予想

3. トピックス

2019年3月期 通期業績予想

- 2Q累計期間はAM分野、PS分野およびMS分野がそれぞれ好調に推移したことから、全社で期初の想定を上回って順調に推移
- 3Q以降は、PS分野で米国無線子会社の販売増やMS分野でメディアの改善を見込むが、外部環境の変化による影響が不透明であることから、現時点では通期業績予想の変更は行わない

(億円)

	'18/3期 実績	'19/3期 予想	増減
売上収益	3,007	3,100	+93
営業利益	69	71	+2
税引前利益	59	60	+1
親会社の所有者に帰属する当期利益	24	27	+3

1. 2019年3月期 第2四半期決算概況

2. 2019年3月期 業績予想

3. トピックス

オートモーティブ分野

- アフター
 - ・前方に加え、後方や車室内録画が可能な2カメラドライブレコーダー（2モデル）を10月から新たにラインアップ
 - ・Bluetooth®によるワイヤレス再生や音楽ストリーミングサービスなど、幅広いメディアに対応するディスプレイオーディオを10月から新発売
- OEM（用品）
 - ・専用設計による高画質録画と高信頼性・高耐久性を実現したドライブレコーダー（リア用）がHonda純正アクセサリとして9月から採用



前方だけでなく後方も同時に高画質録画を実現する
2カメラドライブレコーダー



本田技研工業が展開する主要車種19モデルに
適用するドライブレコーダー（リア用）

テレマティクスソリューション事業の拡大

- 保険会社向け
 - ・自動車保険のフリート契約者向けに続き、当社製通信型ドライブレコーダーが三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保の「見守るクルマの保険」に来年1月から採用
- タクシー事業会社向け
 - ・次世代タクシー配車システム開発に向けて協業中の三和交通のタクシー配車システムを開発、9月から提供開始



三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保に採用された
新開発の通信型ドライブレコーダー



タクシー業界初の月額会員制サービス
「三和交通プレミアムパスポート」向けアプリ

ドライブレコーダー（光学関連）へのさまざまな取り組み

オートモーティブ



- 国内アフター市場で2016～2017年度2年連続販売数量第1位※
- OEM（用品）で2017年から国内自動車メーカー用品として受注拡大

※ 国内のカー用品量販店、家電量販店、インターネット通販などの販売実績を基に推計した市場規模データ / GfK Japan調べ

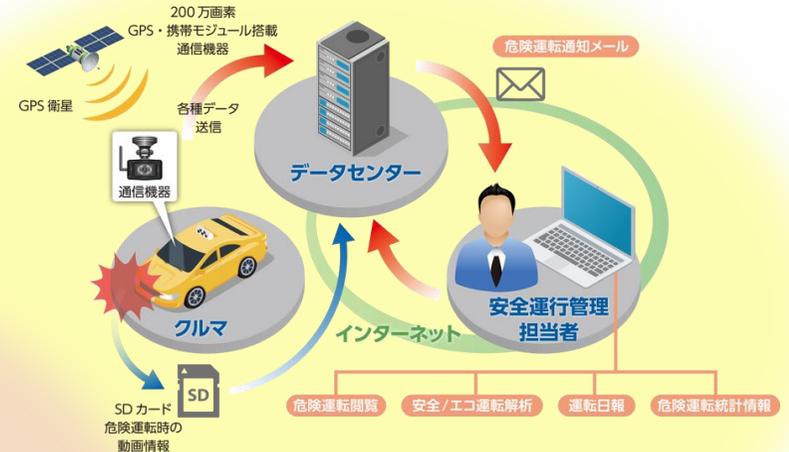


ドライブレコーダー（光学技術）

パブリックサービス

- ドライブレコーダーの光学技術を応用したボディウォーンカメラ&無線システム開発

IoTソリューション



- 三和交通とタクシー向けの次世代配車システムを開発
- 三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保の新自動車保険に通信型モデルが採用 など



開発・生産サポート

メディアサービス

- 2017年から家電量販店・通信販売など向けにJVCブランド ドライブレコーダー販売開始



オートモーティブ分野

■ 車載光学関連事業

- ・車載カメラやAR（拡張現実）技術、コネクテッドの機能を融合した次世代型AR-HUD※を手掛けるWayRay社へ9月に出資完了
- ・AR技術領域における開発協業を目指すことで、車載光学関連事業の拡大を図る

※AR-HUD：AR技術を活用した次世代の車載用ヘッドアップディスプレイ

WayRay社の概要

社名 : WayRay AG

設立 : 2012年9月

本社 : スイス

※ロシアで主要R&Dを実施
※米国、中国に販売会社を保有、
ドイツに工場を建設予定

事業内容 : AR-HUDの開発および販売



WayRay社のAR-HUD

パブリックサービス分野

■ 無線システム

- ・世界最大規模のイスタンブール新空港へNEXEDGEデジタル無線システムを7月から10月にかけて納入
- ・インド南東部 アーンドラ・プラデーシュ州警察からDMRデジタル無線システムを受注、11月に納入予定



ANDHRA PRADESH
POLICE



イスタンブール新空港へ納入したNEXEDGE無線システム



アーンドラ・プラデーシュ州警察から受注したDMR無線システム

パブリックサービス分野

■ 無線システム

- ・LTE活用ソリューションビジネスを手掛けるTait International社へ出資予定、資本業務提携を生かしてパブリックセーフティ事業の強化、ブロードバンドソリューションの早期事業化を目指す
- ・LTE対応&全天候型のタフなハンディ型業務用IP無線機をソフトバンクに供給（11月以降発売予定）

tait
communications



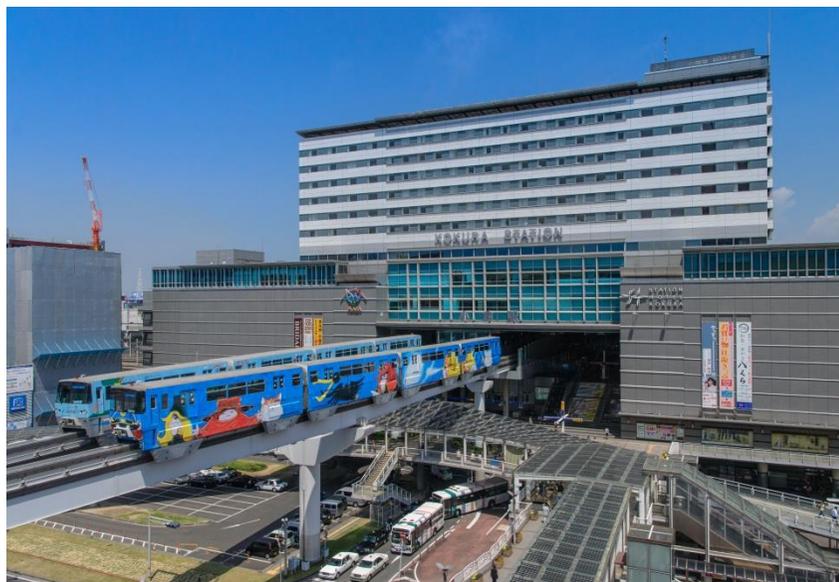
Tait International社との協業で
ブロードバンドソリューションの早期の事業化へ



LTEに対応するとともに、防水・防塵といった“タフ性能”を搭載
全天候に対応するハンディ型業務用IP無線機

パブリックサービス分野

- 業務用システム
 - ・北九州高速鉄道（北九州モノレール）から国内初の4値FSKデジタル方式の無線システムを受注（来年3月納入予定）
 - ・某コンベンションセンター施設の電気設備改修や某鉄道会社へ多言語放送システム納入など五輪需要に伴う売上増加（2Q）
- ヘルスケア
 - ・検体検査用デバイス「バイオデバイス」の開発・製造を行うクリエイティブナノシステムズ株式会社をシスメックスと共同で10月に設立（当社出資比率：49%）



国内初の4値FSKデジタル無線方式による
列車運行無線システムを受注



検体検査用のバイオデバイス
(イメージ)

メディアサービス分野

- メディア
 - ・Bluetooth®対応ヘッドホンが好調、新規ブランドが増える中で市場成長率を上回る勢いで伸長中
 - ・家庭用プロジェクターとして世界初の8K高精細映像表示を実現したD-ILAプロジェクター3モデルを10月から発売

 **Bluetooth®**

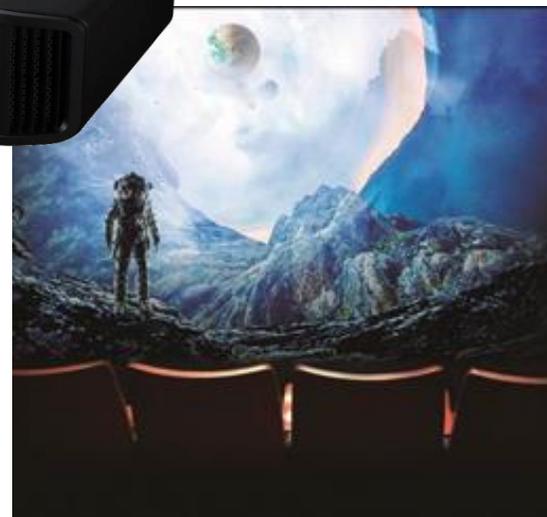


Bluetooth®対応モデルを使用シーンに合わせて多数ラインアップ



8K
e-shift

4K
HDR
High Dynamic Range



家庭用のプロジェクターとして世界初の
8K高精細映像表示を実現

メディアサービス分野

- メディア
 - ・フライトシミュレーター向けプロジェクター市場における8K解像度化が進み、当社への追い風となる期待大
 - ・“CONNECTED CAM™” 第二弾を11月に開催される「2018年国際放送機器展（InterBEE 2018）」で国内初公開



フライトシミュレーター（イメージ）

CONNECTED CAM™



IPライブ伝送・配信ソリューションを提案する
“CONNECTED CAM™”

メディアサービス分野

- エンタテインメント
 - ・8月に発売したサザンオールスターズのアルバム「海のOh, Yeah!!」が大ヒット
 - ・星野源 待望のニューアルバム「POP VIRUS」が12月に発売、下期の貢献に期待



サザンオールスターズ
プレミアムアルバム「海のOh, Yeah!!」



星野源
ニューアルバム「POP VIRUS」

メディアサービス分野

- エンタテインメント
 - ・総合エンタテインメントグループを目指して、渋谷に“ライブ&カフェ・スペース”を来年9月下旬にオープン予定
 - ・「ビクターロック祭り大阪×MBS音祭2018～supported by uP!!!」を10月に毎日放送と共催



“ライブ&カフェ・スペース”（外観イメージ）



2016年、2017年に続く3度目の開催となる
ビクターロック祭り大阪

ブランド戦略

- 近藤真彦チームディレクター率いるKONDO Racing Teamの新たなグローバルレース参戦計画“グローバルチャレンジ”に協賛



参戦車両「NISSAN GT-R NISMO GT3 2018年モデル」とドライバーが着用するレーシングスーツにKENWOODロゴを掲出

ブランド戦略

- 2018 FIA 世界ツーリングカーカップ（WTCC）日本ラウンドにイベント・プレゼンティング・パートナー（冠スポンサー）として協賛



コースの要所にロゴを掲出し当社ブランドの露出、浸透を図る

ブランド戦略

- 「Victor」ブランドにおけるイノベーションの一つとして、「音」の領域におけるブランド展開を明確化
- 旧日本ビクターから引き継がれている音響開発の理念「原音探究」思想に基づき、“木”の振動板を採用したインナーイヤードホン「WOODシリーズ」発売10周年を記念するフラッグシップモデルを発表、11月発売



WOODシリーズの10周年を記念するフラッグシップモデルをビクターブランドで11月発売

JVCKENWOOD

このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらす恐れがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与うるリスクや不確実な要素としては、(1) 主要市場（日本、米州、欧州およびアジアなど）の経済状況および製品需給の急激な変動、(2) 国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3) ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4) 資本市場における相場の大幅な変動、(5) 急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与うる要素としてはこれらに限るものではありません。